# 沖郷地区地域公共交通運行協議会（山形県南陽市）

22年間、地区のほとんどが交通空白地帯だったが、地域住民自ら立ち上がり検討協議し、自分たちに必要な地域交通「おきタク」を導入。利用者の声を反映させ、需要に合わせた負担の少ない運行形態・地域住民の負担金により効率的な財政支出を実現し、持続可能なコンパクトパッケージを構築。

## （取組の概要）

### 1．多様な主体の実質的参画

●住民自ら立ち上がり地域住民全員を構成員と位置づけた協議会（当初は検討会）を設立し、視察、勉強会、アンケート調査を実施。アンケート回収率は約80%。検討開始から本格運行まで協議を21回行い、運行内容を入念に検討。

●市交通担当がタクシー事業者等と調整、公民館が協議会の事務局となり住民主体の協議を後方からサポートし、共通認識を共に積み重ねたことで「おきタク」運行の土台を構築。

### 2．創意工夫

（1）乗用タクシーをベースとする持続可能性を重視した運行形態の構築

●住民アンケートで高齢者小規模需要を把握し、乗合型交通では非効率な運行となることから、あえて「乗用タクシー」として運行し、利便性を確保。

●需要に合ったサービスレベルを入念に協議し、経費、事業者の手間も含めた負担の少ない運行形態を創り上げた。さらには地区の負担金も合わせることで、より効率的な財政支出を実現し、協議会をバランサーとする持続可能なコンパクトパッケージを構築した。

（2）高齢者のおでかけの足となる「おきタク」

●高齢者の外出のハードルを下げることで外出機会が増加。まちの賑わい創出、免許返納数の増加に寄与。

※利用者アンケートより
「おきタク」により外出機会が増加したと回答した人　約4割
免許返納すると回答した人　導入前4人 → 導入後38人

### 3．自立性・継続性

（1）地域の支え合いの意識

●地域の支え合いにより運行するサービスとして、対象者や利用の有無を問わず全世帯（2,513世帯）から負担金（200円/戸・年）を徴収し、継続性と住民の意識を向上。

（2）公共交通としてのタクシー事業者の維持存続

●本事業でタクシーを利用することで事業者の収益の安定化にも寄与。タクシー事業者の存続により地域の交通インフラが維持され、観光等の一般利用者利便の維持継続が図られる。

住民参加の勉強会の様子

運行開始セレモニー（山形新聞　R1.10.2）

頼れる定額タクシー発車
南陽・沖郷 60歳以上対象に

「おきタク」の運行開始記念セレモニーで記念写真に納まる利用者と関係者 ＝南陽市・沖郷公民館前

南陽市沖郷地区で、登録バス「おきタク」が自己負担金を伴わない、自宅から市内の公民館や郵便局、市役所、スーパーなどの目的地まで乗合タクシーを運行する「おきタク」の運行開始記念セレモニーが1日、沖郷公民館前で行われ、利用者や関係者ら約60人が出席した。

沖郷地区は1,886人（昭和61年）から11年間で半減するなど、公共交通の空白地となっていた。住民バスが廃止となり、過疎化が進む地区の高齢者の足確保が喫緊の課題となっていた。

地区の住民アンケートで、高齢者の外出の目的は、通院が約8割、買い物が約2割と、自宅から目的地まで乗り合いタクシーの需要を確認。地区を走るアマゾンに乗車料金を支払うことを条件に、地区を走るアマゾンに乗り合いタクシーの運行を協議。昨年11月に市内にニュータウンを目的に発足した協議会が実施主体となり、市内タクシー業者とも協議を行った。

協議会が実施主体となり、市内タクシー業者とも協議を行った。

納付金を伴う運賃を利用者に負担してもらうことを条件に、運賃は「これから変えるとあいさつした。運1号利用者の佐藤キヤのさん（80）は、目的地に乗れなくなる点でも助かる。月2回ほど利用すると思う」と話した。

市役所が要する60円を私は、市から2万円を負担し、過疎地区の住民の高齢化と、地区内の60歳以上の新たな地域交通システムとなる。

国は昨年1月、国交省が、地域公共交通活性化・再生法を改正し、地域住民の移動手段の確保を目的とした「地域公共交通会議」の設置を義務付けた。自治体が主体となって、地域住民や交通事業者、学識経験者などを交えた会議で、地域の公共交通のあり方を話し合う。

この日、沖郷公民館で行われた開催セレモニーでは、利用者や関係者ら約60人が出席した。

バリアなしに近い公共交通を私は、市から2万円を負担し、過疎地区の住民の高齢化と、地区内の60歳以上の新たな地域交通システムとなる。

国は昨年1月、国交省が、地域公共交通活性化・再生法を改正し、地域住民の移動手段の確保を目的とした「地域公共交通会議」の設置を義務付けた。自治体が主体となって、地域住民や交通事業者、学識経験者などを交えた会議で、地域の公共交通のあり方を話し合う。

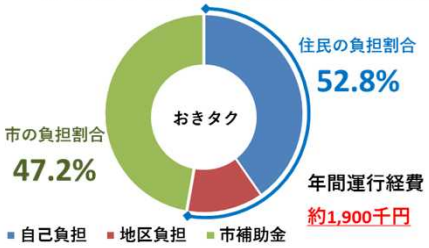
この日、沖郷公民館で行われた開催セレモニーでは、利用者や関係者ら約60人が出席した。

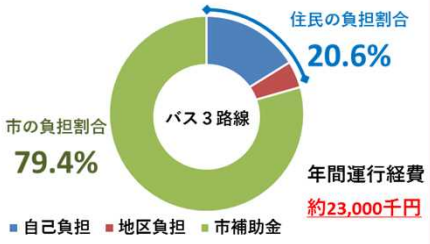
●「おきタク」の概要

| | |
|---|---|
| 対　象　者 | 沖郷地区の60歳以上　（利用登録が必要）<br>登録者以外の家族や知人も相乗りが可能 |
| 運行時間 | 平日8時から17時　　※前日予約 |
| 運行範囲 | 自宅とおきタクのりば※間の移動 |
| 運　　賃 | 1乗車　500円（片道） |
| 利用状況 | 医療66% 商業19% 金融5% 公共機関10% |

※おきタクのりば・・・協議会が指定する乗降場所
現在は医療・金融・公共機関、商業施設54箇所

●「おきタク」と市内路線バス（3路線）の運行経費負担割合・負担額の比較




沖郷地区住民1人あたり
市の負担額　121円／年

沖郷地区以外の住民1人あたり
市の負担額　750円／年